



# 2023年12月期 第2四半期 決算説明資料

ニューラルグループ株式会社  
2023年8月10日

2023年6月1日より「ニューラルポケット株式会社」から「ニューラルグループ株式会社」へ商号変更をしました。

- **2023年12月期 第2四半期決算ハイライト**
- 事業成長のテーマと各種AIサービス進捗

# 2023年12月期 第2四半期決算ハイライト

## 事業成長性

AI及び屋外サインージ市場の  
追い風を受け、継続成長中

売上成長率

**+19%**

Q1-Q2累積対昨年比

## 高い収益性

高粗利維持で、今期中の  
黒字化に向けて順調に推移

売上総利益率(粗利率)

**66%**

Q1-Q2累積実績

## 大規模な営業体制

**150名超**のサービス販売体制を  
構築する数少ないAI企業

グループ従業員数<sup>\*1</sup>

**257人 (+89人)**

( ) 内 昨年Q2末比較

## 事業展開

新たな事業モデル始動で  
屋外広告事業の事業展開拡大

**広告運用事業  
の開始決定**

仙台駅前の大型LEDビジョン  
での広告運用サービス

## 技術

新規技術への積極的な投資と  
事業化・売上創出を推進

**独自大規模言語モデル  
NEURAL LLMの開発**

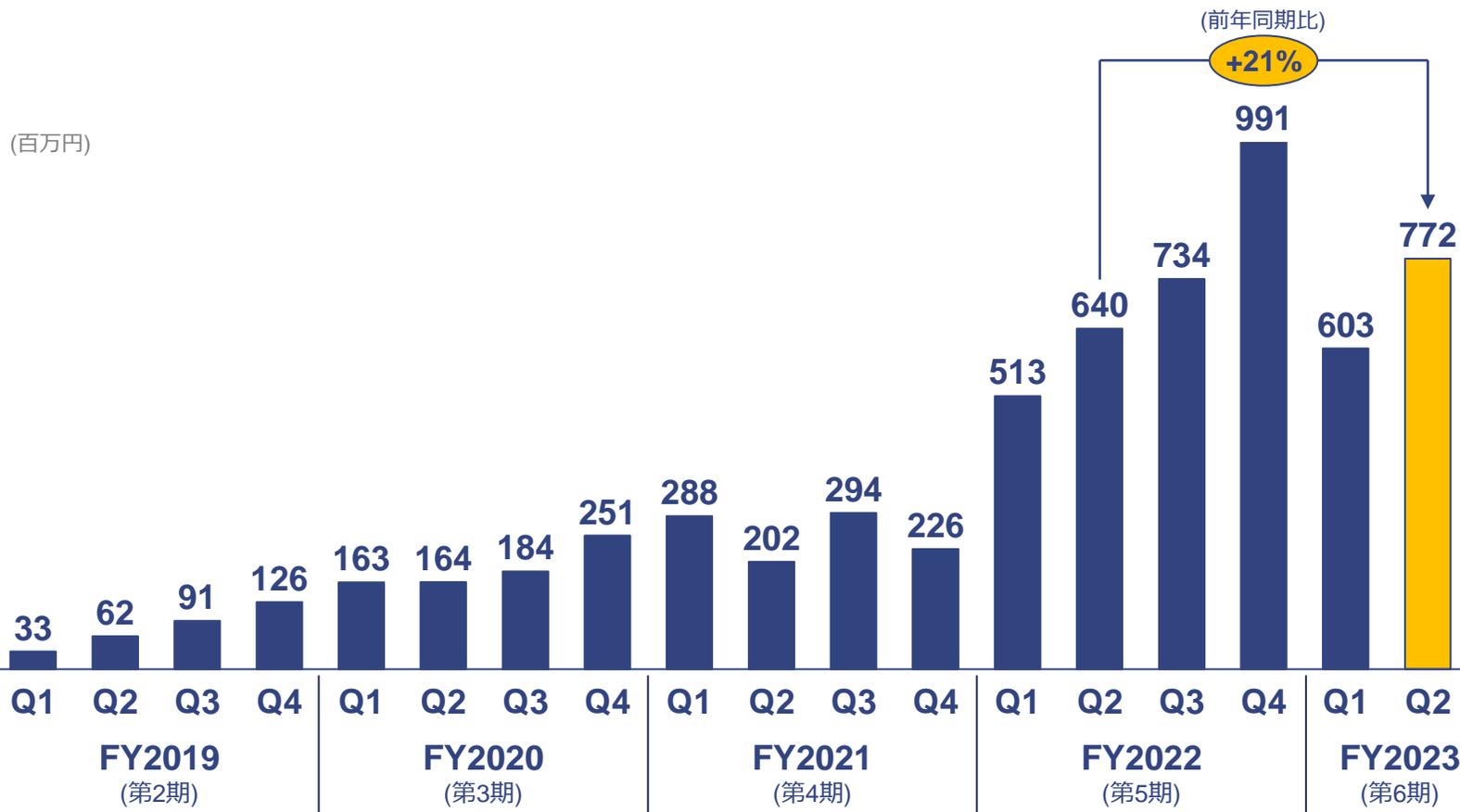
言語生成、画像生成、アパレル  
着せ替え等のマルチモーダルな  
サービスへ活用

\*1 2023年6月30日時点の正社員の合計。役員（取締役・監査役・執行役員）、パート・アルバイト、業務委託、インターン等は含まない。当社100%子会社のニューラルマーケティング株式会社を含む。

# 売上は下期偏重で、通期売上高40億円に向けて事業推進中

## 売上高の推移

	通期実績	通期実績	通期実績	通期実績	通期予想
通期売上高	311	762	1,010	2,878	4,000
(対前年比)	(+417.3%)	(+144.8%)	(+32.4%)	(+184.9%)	(+38.9%)

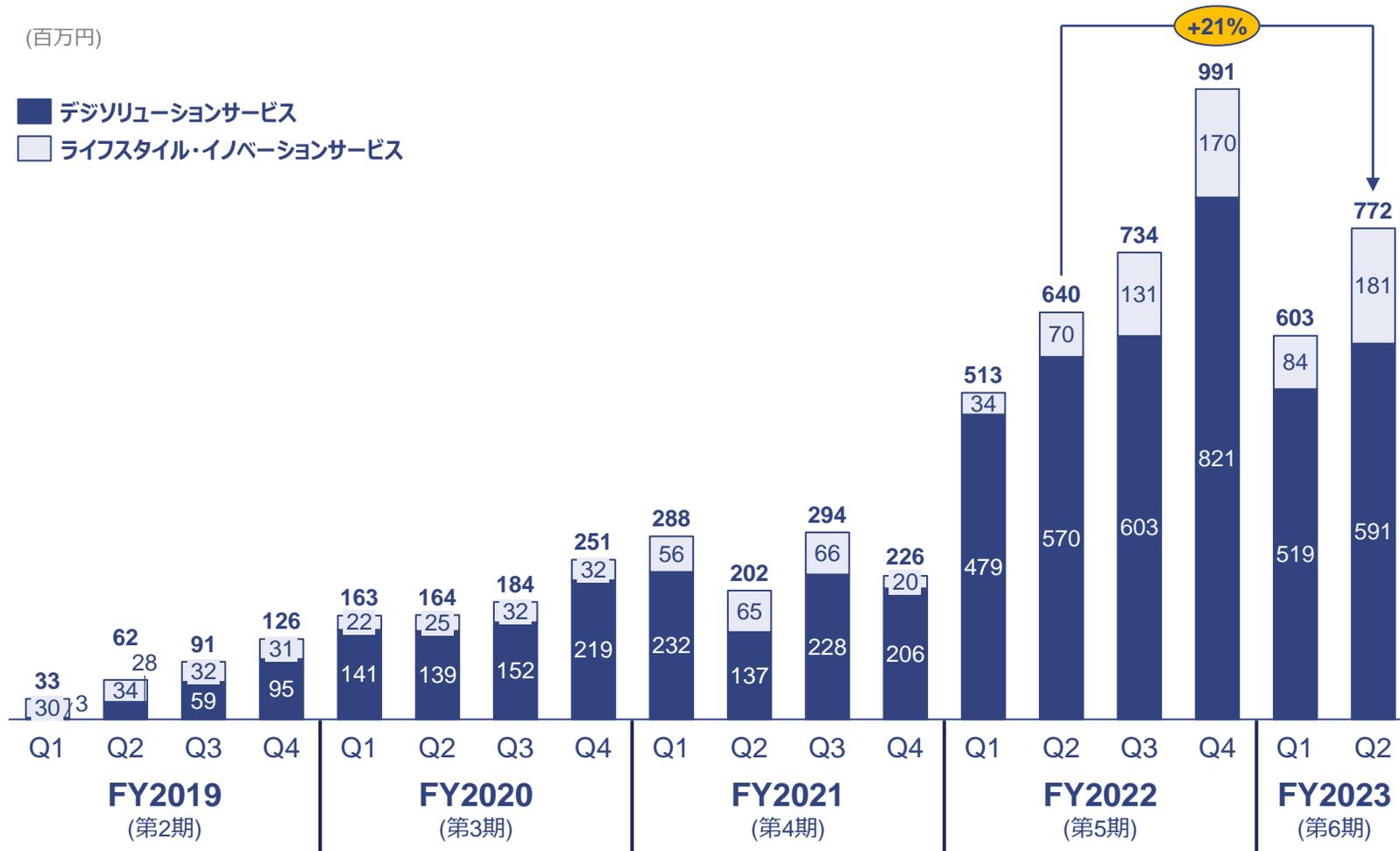


# サービスドメイン別 四半期売上高推移

## 売上高の推移

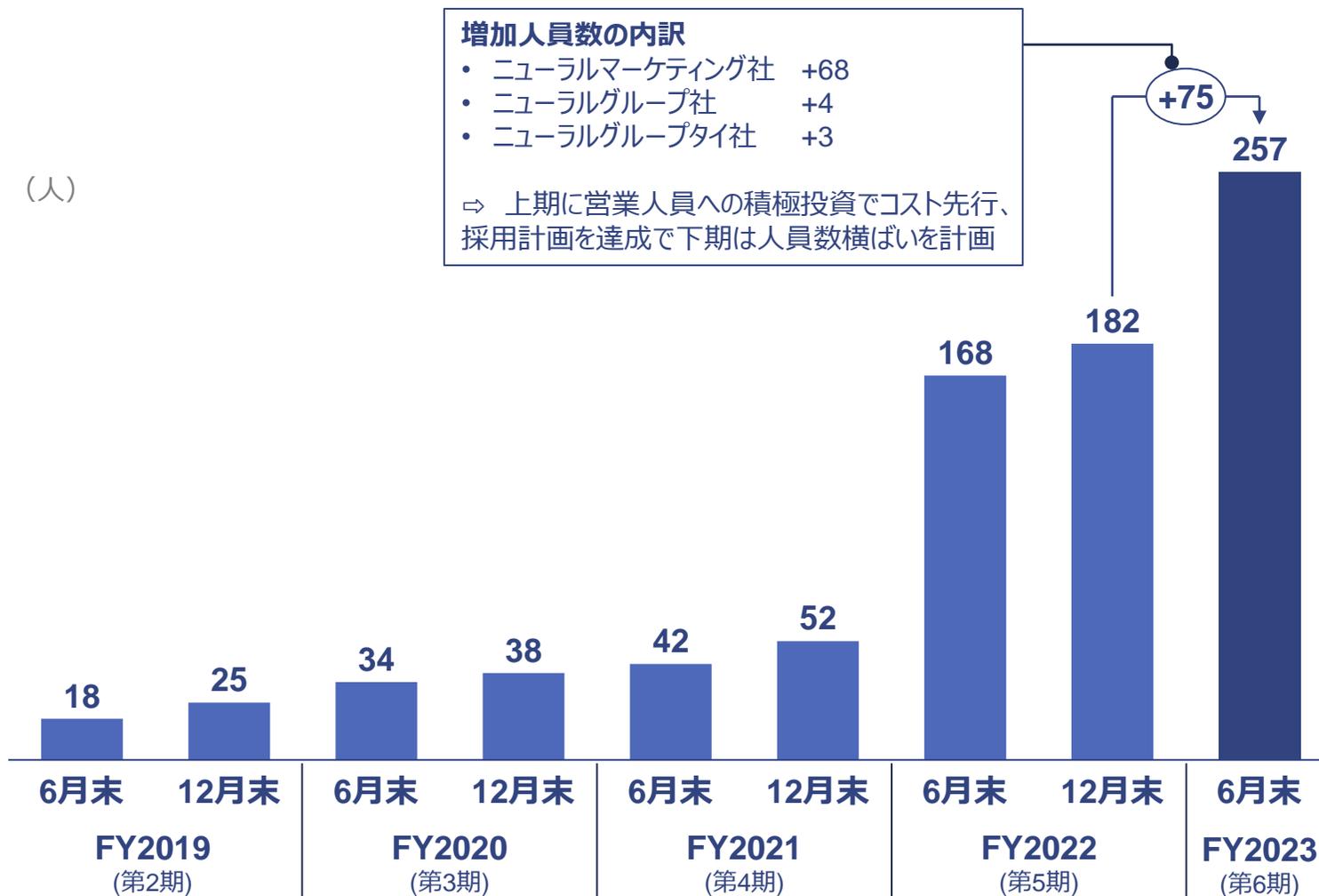
(百万円)

- デジタルソリューションサービス
- ライフスタイル・イノベーションサービス



# グループ従業員数<sup>\*1</sup>の推移：2023年12月期上期にニューラルマーケティング社の営業人員を中心に集中的に拡大、下期は横ばいの計画

(人)



<sup>\*1</sup> 2023年6月30日時点の正社員の合計。役員（取締役・監査役・執行役員）、パート・アルバイト、業務委託、インターン等は含まない。当社100%子会社のニューラルエンジニアリング社、ニューラルマーケティング社、ニューラルグループタイ社を含む。

## 2023年12月期 第2四半期 連結業績

(百万円)	2022年 12月期 Q1-Q2実績*1	2023年 12月期 Q1-Q2実績	増減額	増減率
<b>売上高</b>	<b>1,153</b>	<b>1,375</b>	<b>+221</b>	<b>+19.2%</b>
<b>売上総利益</b> 売上総利益率	<b>770</b> 66.8%	<b>907</b> 66.0%	<b>+136</b>	<b>+17.7%</b>
<b>EBITDA</b> EBITDA%	<b>-87</b> -7.6%	<b>-351</b> -25.6%	<b>-264</b>	<b>-</b>
<b>営業利益</b> 営業利益率	<b>-282</b> -24.5%	<b>-436</b> -31.7%	<b>-153</b>	<b>-</b>
<b>当期純利益</b> 当期純利益率	<b>-906*1</b> -80.8%	<b>-364</b> -26.5%	<b>+542</b>	<b>-</b>

### 売上は下期変調で、通期での黒字化に向けて事業推進中

\*1 2022年12月期第4四半期に、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2022年12月期第1及び第2四半期に係る各数値について会計処理の確定の内容を反映していることから、2022年8月10日に開示しております決算説明資料内記載の数字と一部異なっております。

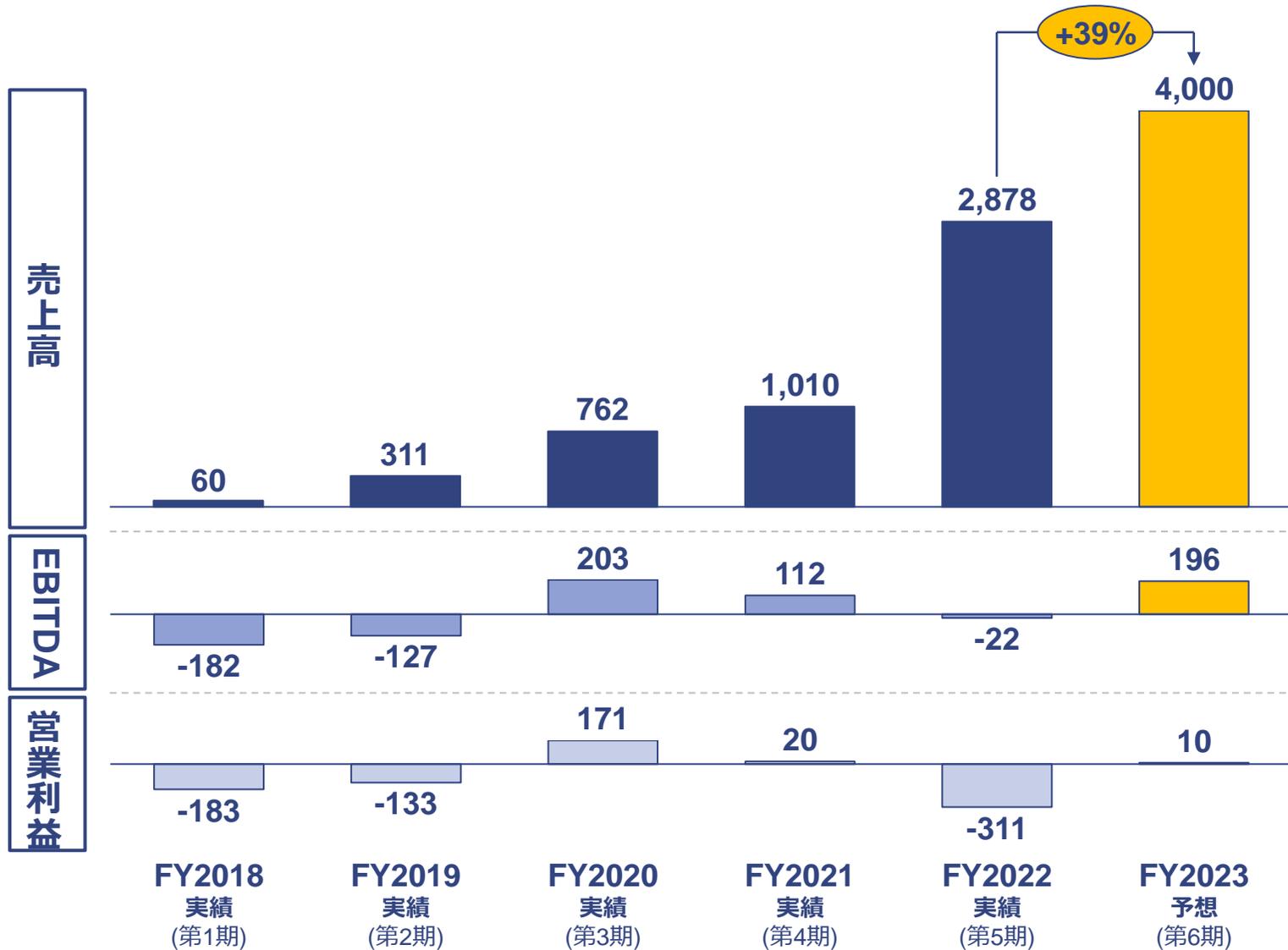
\*2 2022年12月期第2四半期に計上しました一過性の減損損失624百万円を含んでおります。

## 2023年12月期 第2四半期末：貸借対照表

(百万円)	2023年12月期 第1四半期	2023年12月期 第2四半期
	2023年3月末	2023年6月末
<b>流動資産</b>	<b>1,593</b>	<b>1,972</b>
うち現金及び預金	913	1,198
<b>固定資産</b>	<b>1,738</b>	<b>1,788</b>
<b>資産合計</b>	<b>3,332</b>	<b>3,761</b>
<b>負債合計</b>	<b>3,084</b>	<b>3,013</b>
うち有利子負債	2,712	2,650
<b>純資産合計</b>	<b>247</b>	<b>747</b>

- 2023年5月にソニー株式会社を引受先とする第三者割当増資を実施
- 今後も積極的に国内外のグローバル企業との資本又は業務提携を積極的に推進

# 2023年12月期 通期業績予想と業績推移



## 2023年12月期 連結通期業績予想

(百万円)	2022年 12月期 実績	2023年 12月期 業績予想	増減額	増減率
<b>売上高</b>	<b>2,878</b>	<b>4,000</b>	<b>1,121</b>	<b>+38.9%</b>
<b>売上総利益</b> 売上総利益率	<b>1,849</b> 64.3%	<b>2,650</b> 66.2%	<b>800</b>	<b>+43.3%</b>
<b>EBITDA</b> EBITDA%	<b>-22</b> -0.8%	<b>196</b> 4.9%	<b>218</b>	<b>-</b>
<b>営業利益</b> 営業利益率	<b>-311</b> -10.8%	<b>10</b> 0.2%	<b>321</b>	<b>-</b>
<b>経常利益</b> 経常利益率	<b>-307</b> -10.7%	<b>2</b> 0.0%	<b>309</b>	<b>-</b>
<b>当期純利益</b> 当期純利益率	<b>-909</b> -31.6%	<b>-100</b> -2.5%	<b>809</b>	<b>-</b>

## 8月10日公表 棚卸資産の誤謬について

- 当社子会社であるニューラルマーケティング株式会社（2022年2月21日にM&Aにより子会社化、当時社名：株式会社ネットテン）において、FY2022 Q4およびFY2023 Q1の決算における棚卸資産の誤謬と、これに伴う売上原価の誤謬が判明いたしましたので、遡及修正を行うものです。
- 当社による子会社後のPMIの一貫として、内部統制の強化を図ることを目的に2022年12月1日より新たな在庫管理システム及び業務フローを導入した際、法人向け大型商品にかかる新規受注案件を中心に棚卸資産の適切な払出処理が行われなかったことで売上原価の過小計上あるいは過大計上を招きました。
- FY2022 Q4については棚卸資産の一部過大計上とこれに伴う売上原価の過小計上（影響額 60百万円）  
FY2023 Q1については棚卸資産の一部過小計上とこれに伴う売上原価の過大計上（影響額 12百万円）  
をそれぞれ遡及修正を行います\*1
- 当年度の業績予想に変更はありません

(百万円)	2022年12月期 通期 (2022年1月~12月)			2023年12月期 第1四半期 (2023年1月~3月)		
	訂正前	訂正後	影響額	訂正前	訂正後	影響額
売上高	2,878	2,878	-	603	603	-
売上原価	968	1,029	+60	215	203	-12
営業利益	-251	-311	-60	-227	-215	+12
経常利益	-247	-307	-60	-233	-221	+12
当期純利益	-879	-909	-29	-189	-192	-2

\*1 詳細について2023年8月10日付「過年度の有価証券の訂正報告書の提出及び過年度の決算短信等の訂正に関するお知らせ」をご参照ください。

- 2023年12月期 第2四半期決算ハイライト
- **事業成長のテーマと各種AIサービス進捗**

# 2023年12月期 期初からの事業成長テーマ



## ニューラルグループ（連結）

- 23年経営テーマは「**スケールと収益化**」
  - 高粗利率を維持し、ユニットベース収益のスケール化加速で、収益基盤を強化
  - **通期での営業黒字**の実現と、来期以降への成長を見据えた**将来投資**を両立
- 今後も積極的に国内外のグローバル企業との**資本又は業務提携**を積極的に追求



## AIデジタルソリューション

- 22年の設置実績の加速を目指し、23年での**累計400ユニット設置**を実現、民間・公共双方で価値提供（Q2期末時点278ユニット設置済）
- 昨年新設の**タイ法人を拠点**に、タイや東南アジア地域における**大規模都市開発**やスマートシティ活動に積極的に参画で、日本での実績の横展開（年内、複数案件導入に向けて取組中）



## ニューラルマーケティング

- 10%を超える市場成長<sup>\*1</sup>を背景に**70名超の営業人員**採用で、グループ全体の商品を拡販するための販売体制強化（Q2期末68名採用実現）
- 沖縄、南九州、四国、北陸、北関東、北海道の**6地域で新拠点**設立（Q2期末現在、札幌、高松に新拠点設立済）
- フォーカスチャネルのマンション広告とLEDビジョン広告を**50台新設**<sup>\*2</sup>目指す（Q2より設置開始）



## ライフスタイル・イノベーション

- アパレル領域の安定的な事業継続
- 将来的な当社サービスの柱となりうる**新領域を積極的に自社開発**
  - 需要予測AIや着せ替えAI（Q2に独自LLMの開発を発表）
  - コンテナ混載最適化や衛星画像分析
  - AI技術を活用したゲーム領域 等

<sup>\*1</sup> 国内デジタルサイネージのサイネージ販売および広告販売市場の成長率。富士キメラ総研2021年2月発行「デジタルサイネージ市場調査2021」をもとに当社調べ。 <sup>\*2</sup> 2022年12月期に設備費用について計上済。設置に伴う費用負担は限定的。

# デジソリューションサービスの設置・導入ユニット数（累計）

👍 ユニットベースでの成長継続。Q2よりマンションにおける広告サイネージ（フォーカスチャネル）の設置再開で今後も段階的に設置予定。



<sup>\*1</sup> ニューラルマーケティング株式会社が当社グループ参画後に設置したLEDサイネージ拠点数。 <sup>\*2</sup> マンションサイネージメディアのフォーカスチャネルとして設置したマンションサイネージの他、商用導入あるいは試験設置をしているサイネージの台数合計。 <sup>\*3</sup> デジパーク・デジフロー等に関連して設置したエッジボックスユニットの台数。1台のエッジボックスで複数のカメラの解析を行うことができる。

# サイネージ広告事業の垂直統合モデルで、独自の屋外AIメディア事業構築進む

## 屋外サイネージ広告のバリューチェーンと当社グループ実績

全国1万台~の導入実績

**1. 設置先選び**

**2. サイネージ機器製作・選定**

**3. 設置施工**

**4. 運用・メンテナンス**

生成AIを活用  
社内制作チーム

**5. コンテンツ制作**

\*AIで生成したイラスト  
(ニューラルマーケティング社)

独自CMSによる運用

**6. 広告配信**

2023年10月  
より開始決定  
\*次頁詳細

**7. 広告代理・メディアレップ**

エッジAIを活用した  
視聴状況可視化

**8. AI可視化、視聴率レポート**

# 2023年10月より駅前大型LEDビジョンでの広告運用事業開始決定

👉 当社グループが首都圏の高級マンションを中心に運営するマンションサインージメディア「FOCUS CHANNEL」にて培った、  
 広告販売・広告放映および運用の知見や営業網を活かし、自社「FOCUS CHANNEL」以外では初となる広告運用事業を開始。



JR仙台駅に隣接する都市型商業施設「BiVi仙台駅東口」の大型LEDビジョン「BiViビジョン仙台」のイメージ図、'23年10月放映開始予定

大型LEDビジョンの提供・設置・導入



導入後の広告販売、運用

当社独自マルチモーダル大規模言語モデルを2023年6月に発表

# NEURAL.LLM™

ChatGPTの  
補完や置換え

適用

適用

## Generative Web powered by ChatGPT

ブログ自動生成



ロコミ自動返信



多言語変換



SEO自動化



Web言語自動生成

## Neural Designer



当社生成の画像・映像

## Virtual Try-on



当社生成の着せ替え機能

独自LLM基盤の開発で、幅広い用途・事業領域でのマルチモーダルなサービス提供を進める

# ChatGPTを活用した新規Web事業立ち上げで年内1億円程度の売上見込む

## Generative Web powered by ChatGPT



### 機能1 ブログ自動生成

### 機能2 多言語変換

### 機能3 口コミ自動返信

### 機能4 SEO自動化

AI搭載型CMSで専門知識不要で手間なくウェブページの効果を最大限発揮

- **ニューラルマーケティング社（当社100%子会社）の持つ広範な営業力と当社の持つAI開発力を組み合わせ、ウェブページ事業を新規立ち上げ**
- **2023年5月より販売開始で、2023年12月期にて1億円程度の売上を見込む**
- **生成AI分野を研究開発に留めず、迅速な事業化を進める**

# フォーカスチャネルブランドの浸透を受け、Q2よりマンションサイネージの新規設置を再開

2023年7月18日、フォーカスチャネルプレスリリースより

- 有力な設置先から選択的に**新規設置再開**で首都圏最大のマンションサイネージメディアとしての事業拡大推進
- 首都圏の富裕層をターゲットとする独自メディアとの連携で**共同広告パッケージプランの提供開始**、独自メディアとしての認知が拡大中



ブランドタワーみなとみらい（東急不動産ブランドシリーズ）での新規に設置したAIサイネージ



# 多くの街づくりの中でデジソリューションサービスの導入続く

● 導入の主要拠点

**兵庫県**  
プロロジスパーク猪名川1・2  
ナンバープレート解析



**大阪市うめきた2期開発**  
屋外環境における人流・属性・特定行動検知実証



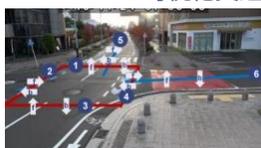
**ハウステンボス**  
屋外駐車場での満空把握及び車番検知



**首里城公園**  
人流解析で運営DX支援



**安城市**  
街区・道路情報の、国交省推進の3D都市マップ上への可視化実証



**仙台市**  
都市中心部の人流解析  
避難所運営の効率化



**SMARK伊勢崎**  
屋外駐車場満空把握  
および利用者誘導効率



**横浜市山下公園**  
バラ園での利用人数・混雑状況の可視化



**竹芝**  
都心オフィスタワーのスマートビル・スマートシティ開発

**三菱地所 丸ビル・新丸ビル・OAZO**  
人流、滞在時間見える化他



**渋谷ヒカリエ ShinQs**  
ファッション店舗の顧客分析



**室蘭市**  
都市政策及び観光分野におけるAIを活用した街づくりで地域活性化促進



**柏の葉スマートシティ**  
タウンマネジメントにおける見守り・防犯AIカメラ提供



**巣鴨地区・大正大学**  
大学教育の高度化に向けた産学連携と周辺地域のデジタル化推進



**西新宿エリア**  
都心駅や都市公園における人流把握および情報発信のデジタル化



**都営地下鉄 都庁前駅**  
ローカル5Gを活用した駅利用者情報発信

**丸の内仲通り**  
大丸有まちづくり協議会、人流解析を通じた街づくり支援



**三井不動産市川塩浜II物流施設**  
物流トラック車番検知他



**東京流通センター**  
車両混雑の可視化



# デジソリューションの導入拡大で、サービスの磨き込みや新ニーズ特定の仕組みを構築

直接顧客に販売・営業することで短いフィードバックサイクル実現

当社AIカメラで  
検知する主な情報

- 通行人数・車両台数
- 通行方向の情報
- 通行人・車両の接近情報
- 車番情報（詳細文字情報を含む）
- 滞在人数・台数
- 滞在時間
- 滞留・渋滞状況

ユースケース/ニーズ

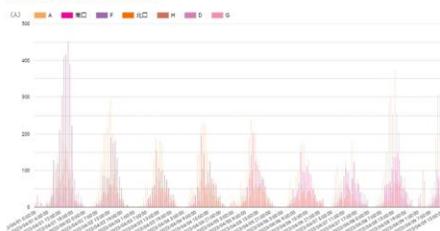
取得情報の利用方法

- 施設利用状況基礎データ構築
- 利用状況可視化と渋滞緩和
- 施設動線の改良
- 来場者へのリアルタイム情報の提供による利用者満足度向上
- 登録車両検知と付加価値サービスの提供
- 無断駐車抑制
- 警備・駐車場監視の効率化
- 通行者・車両誘導業務の補助
- ライブ情報に基づく通行者・車両への注意喚起と事故防止
- 過疎地での人員確保課題の緩和

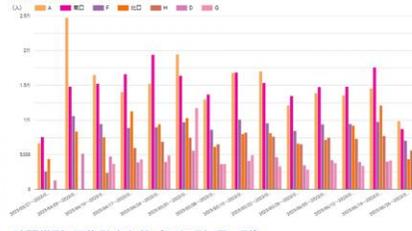
デジソリューション  
のインターフェース

※当社がお客様に提供している画面の一部抜粋

時間別人流解析 (断面別)



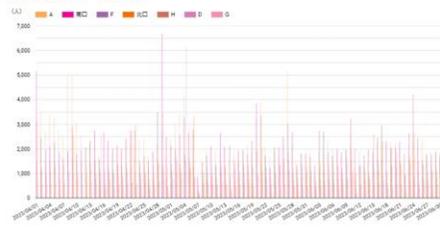
週別人流解析 (断面別)



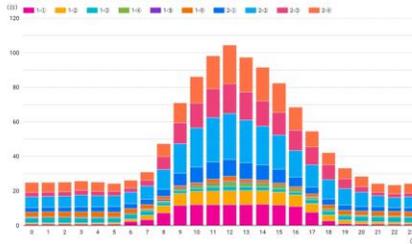
ナンバープレート地域別来場台数・割合 (ライン別)



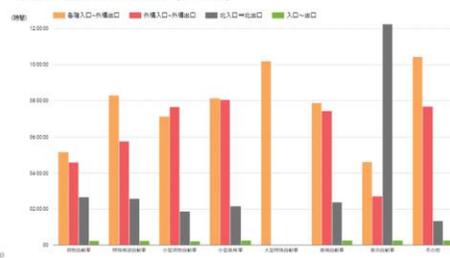
日別人流解析 (断面別)



時間帯別 平均駐車台数 (エリア別・曜日別)



車種別 施設平均滞在時間 (ルート別)



独自サービス



デジパーク



デジフロー



デジスルー

... (随時ローンチ)

当社顧客（行政、施設運営管理者他）からニーズをヒヤリングし、デジソリューションのポダクト開発を進める

# 全国各地で進む「デジフロー」（人流分析）導入の事例

## 沖縄県 首里城公園（'23/4 発表）

### 施設管理運営のDX化支援

内閣府沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所・沖縄県・一般財団法人沖縄美ら島財団と連携し、都市公園内で人流解析



## 東京都千代田区 丸の内仲通り（'23/4 発表）

### 人流の可視化によるまちづくり支援

一般社団法人大手町・丸の内・有町地区まちづくり協議会と連携し、「デジタルを活用した安全・安心なまちづくり」をAIカメラの導入で支援



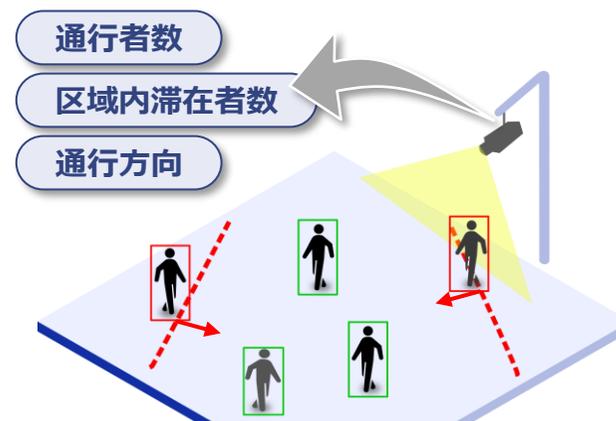
## 横浜市 山下公園 バラ園（'23/3 発表）

### 混雑の見える化と公開Webページ連携

横浜市主催「ガーデンネックレス横浜」の利用人数把握と混雑状況の情報発信による施設運用の改善や来園者満足度向上

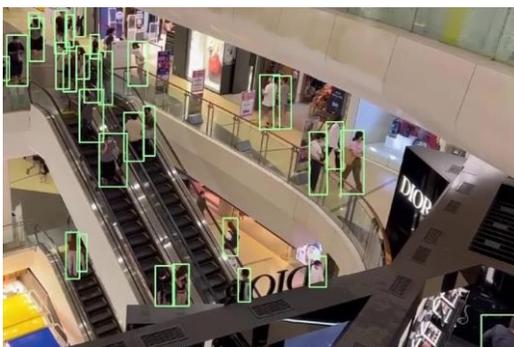


## 人流分析「デジフロー」の主な解析機能



# タイでは民間・学校・公共で多面的に事業推進中でソリューション導入に向けて進捗

## CPグループEgg Digital社と提供協定



- ・ タイ最大級の財閥企業CPグループのデジタルマーケティングを担うEgg Digital社と提携
- ・ CPグループ内外でAI 技術を活用したリアル空間のアップデートを計画中

## 採択のJICA支援事業推進

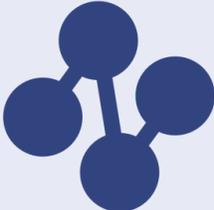


- ・ JICA支援のもと、インフラ整備・運輸交通分野での事業化推進
- ・ タイ現地企業との協業で、現地商業施設向けの混雑可視化ソリューションの導入を計画中

## タイ現地でのAI啓蒙活動



- ・ 上) 日タイ経済フォーラムでのパネルディスカッション登壇
- ・ 下) Startup × Innovation Thailand Expo 2023での講演とブース出展



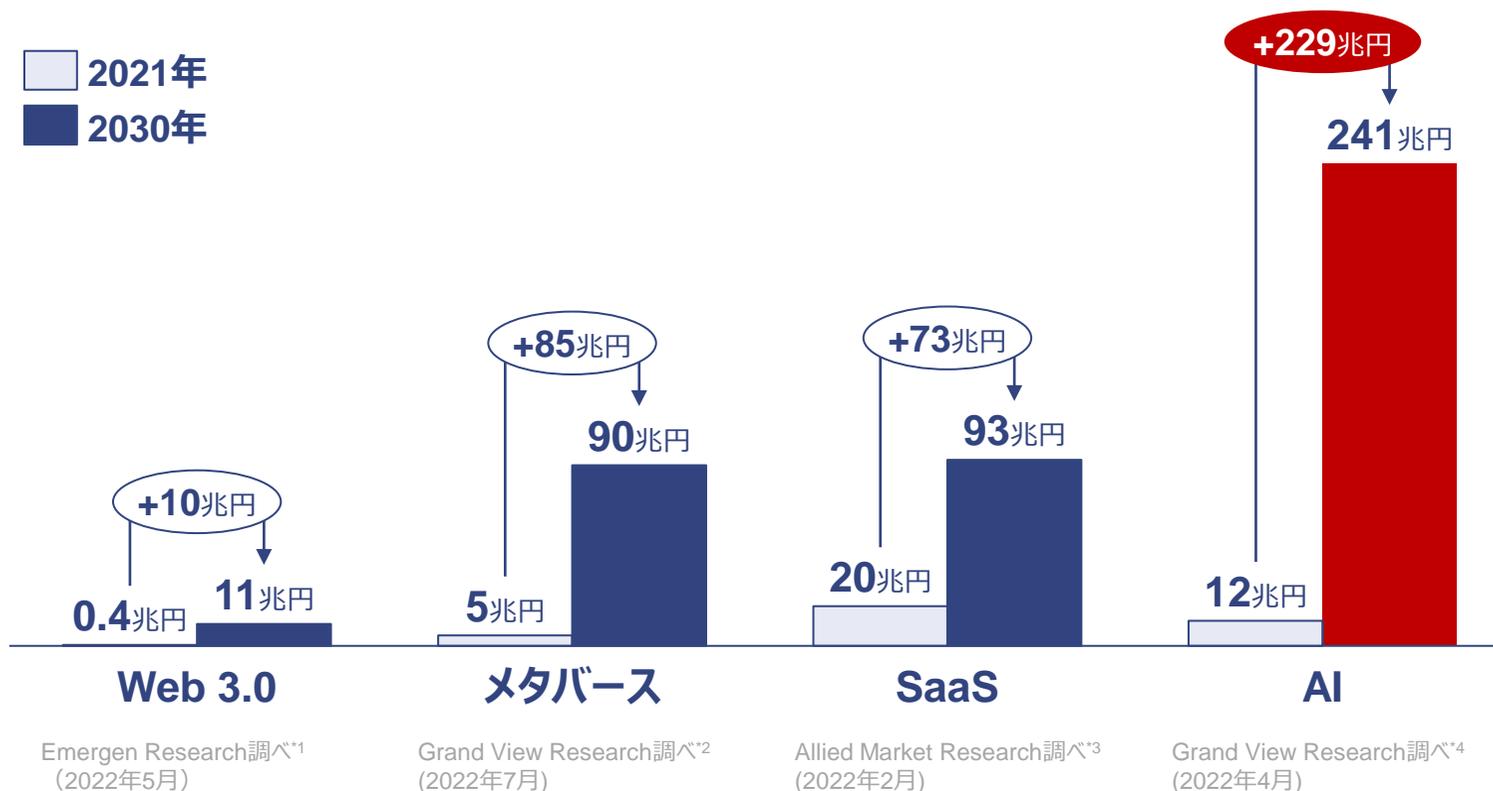
**NEURAL**

# 補足資料

- AI業界トレンドと当社の強み
- 会社概要

# AI業界はその他の成長領域と比較しても、圧倒的な市場規模への成長が予想される

## グローバル市場規模の比較



<sup>\*1</sup> Emergen Research, Web3.0 Market Size, Share, Trends (2022年5月発行)    <sup>\*2</sup> Grand View Research, Metaverse Market Size, Share & Trends Analysis Report (2022年7月発行)    <sup>\*3</sup> Allied Market Research, Software As A Service (SaaS) Market Statistics: 2030 (2022年2月発行)    <sup>\*4</sup> Grand View Research, Artificial Intelligence Market Size, Share & Trends Analysis Report (2022年4月発行)  
 なお、いずれの市場規模金額額について為替レート133円/ドルにて試算。

# 「AI技術提供」から「AIサービス販売」へのシフトを通じて、AI業界のスケール化が進行

## AI技術提供：AI技術そのものを提供



顧客企業から  
受託案件



AI技術の  
実証実験



AIライセンス  
の販売



売上シェアと  
拡販の協議

個別企業のニーズ  
や関心に応じて  
カスタマイズした  
個別技術提供

## AIサービス販売：AIで実現されるサービスを提供



多様な  
AI技術



100%水準  
の検出精度



24時間365日  
水準の稼働性



サービス活用  
シーンの広がり



解析データ  
形式の汎用性



導入しやすさ  
や安心価格



セキュリティや  
個人情報保護



導入効果  
や満足度

社会のペインポイント  
を解決するAIサービスの  
スケール化や  
大規模拡販

- 高いAI精度や品質が前提
- AIエンジンは長期実運用・安定稼働される
- 市民や消費者に日々無意識に利用される日常的なサービス

当社の注力領域

# AI業界の成長を支えるAI技術そのものも急速に進化

## クラウドAI

従来のアプローチ



- 高コスト (通信費・維持費)
- 高遅延 (ネットワーク負荷)
- 高消費電力

## エッジAI

当社が注力するアプローチ



- 低コスト
- 低遅延
- グリーン

プライバシー保護  
にも大きく寄与



# 多くのグローバルトップ企業でエッジAI技術の導入が加速

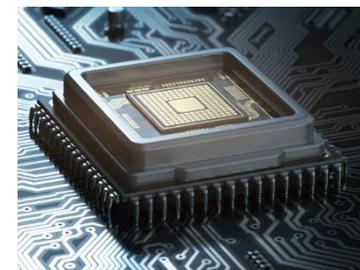


NVIDIA DRIVE AGX Xavier

低遅延性と通信環境に影響を受けない安全性の実現に向け、自動運転用エッジデバイス開発を加速



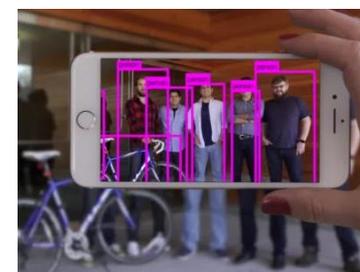
深層学習に特化し、低消費電力で高速推論を実現するエッジ向けチップEthos NPUシリーズ提供



メタバース機器の低遅延性処理用に、エッジ化の研究成果を多数発表



エッジ端末で高速にAI実行するための技術を保有するXNOR.ai社を2億USDにて買収



スマートフォンでエッジAI専用チップを標準搭載、性能も年々高度化



イメージセンサ統合型エッジAIチップを実用化、リアルタイムでの画像認識やメタデータ変換を実現



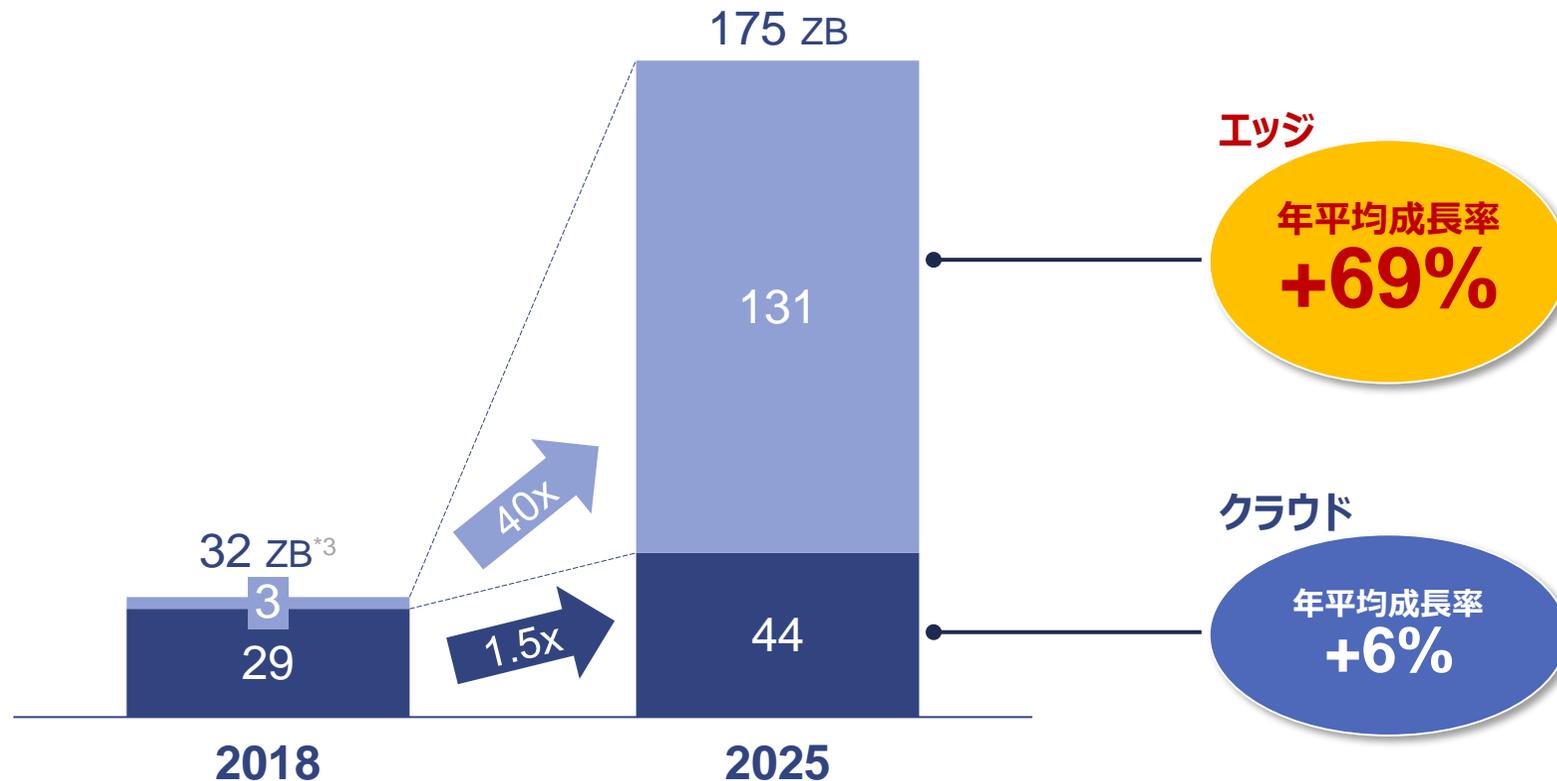
# エッジ処理は急速に普及・拡大している

## エッジとクラウドで処理されるデータ総量のシェア予測<sup>\*1\*2</sup>

2018年から2025年

## 成長予測

2018年から2025年



\*1 エッジのシェアについてWhat Edge Computing Means for Infrastructure and Operations Leaders, Gartner (2018年10月)調べ。

\*2 データ総量についてData Age 2025 Whitepaper, IDC (2018年11月)調べ。

\*3 ゼタバイト。データ量の単位。109 TB(テラバイト)に相当。

# 当社はエッジAIを通じて社会のスマートシティ化を実現する – リアル空間のデータを循環・活用させるエッジAIプラットフォームを目指す



当社が実現するスマートシティの姿1

## 待ちのない街

AI技術を活用したデータ解析で  
待ち時間から楽しさ・安心時間に

当社の目指すスマートシティのビジョン

# データが循環する社会



当社が実現するスマートシティの姿2

## 情報に出逢える街

地域や個人に密接した情報を通して人々の行動変容を促す  
AIで視聴分析や配信自動化を支援



# Neural Platformでは、スマホ世界と同様に、簡単にAIソフトを開発しユーザーに提供可能で、管理者はエッジ機器の稼働管理やデータ解析を容易に実施可能



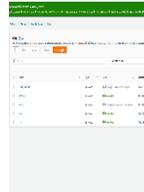
## Neural Platformの機能

### 実際の画面と機能概要

サービス/ アプリ構築 機能	AIサービス 管理	 <ul style="list-style-type: none"> <li>人流分析や車両解析など、様々なAIサービス（AIモデル）をスマホのアプリストアの要領で管理、提供</li> <li>開発者がAIプログラムを更新した際は、簡単にサービスのアップロードを行うことができる</li> </ul>
	AI 開発環境	 <ul style="list-style-type: none"> <li>社内外の開発者がAI開発（アノテーション、モデル選定、学習、アプリ化など）を行うための開発環境</li> <li>スマホのアプリ開発環境と同様に、様々なエッジ端末・アプリでの稼働や運用も可能とする</li> </ul>
コンテンツ 活用機能	コンテンツ 再生/表示 (CMS)	 <ul style="list-style-type: none"> <li>AIサービスに不可欠なコンテンツ（テキスト、写真、動画、音声など）の再生プログラム</li> <li>LTEネットワークを介してエッジ機器に情報を送受信することで、リアルタイムで情報をやり取りできる</li> </ul>
	データ分析	 <ul style="list-style-type: none"> <li>エッジ機器からLTEネットワークを介して送信されたデータを蓄え、人びとの行動変容に繋げるデータ解析を実施</li> <li>多様な表示形式を選択することができ、社会ニーズに合わせたデータ分析をウェブブラウザ上で簡単に行う</li> </ul>

## Neural Platformの機能

### 実際の画面と機能概要

エッジ機器 運用機能	機器管理/ 死活監視	 <ul style="list-style-type: none"> <li>稼働中のエッジ機器の稼働（死活）状況をリアルタイムでインターネット上で管理</li> <li>各機器の中でのAIサービス（スマホでのアプリに相当）の稼働状況やエラーログも管理</li> </ul>
	リモート自動 アップデート	 <ul style="list-style-type: none"> <li>AIサービス（AIモデル）やコンテンツ（テキスト、写真、動画、音声など）をLTEネットワークを介して自動送信し、アップデート</li> <li>コンテンツの再生プログラムや番組表も同時に更新可能</li> </ul>
	セキュリティ ウェア	 <ul style="list-style-type: none"> <li>ハードウェアとソフトウェア双方に対するセキュリティ脆弱性診断により、エッジ機器への攻撃を未然に防止</li> <li>データや通信を暗号化すると同時に、エッジ機器を介した攻撃を監視</li> <li>プライバシーを含む映像は消去</li> </ul>

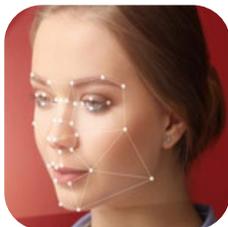
# 当社ではスマートシティを実現するためのAI技術やエッジ実装技術を多数開発・保有

## 人の属性解析

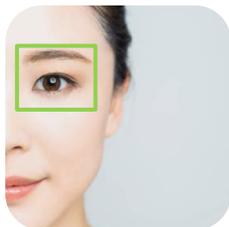
性別/年齢解析



顔認証



視線分析



ファッション解析



## 人の感情・思考解析

表情・感情解析



音声・感情解析



自然言語処理

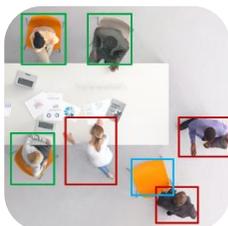


## 人の動き・行動解析

混雑度解析



空席検知



安心・安全見守り



侵入検知・防犯



## 車両解析

交通解析



駐車場満空把握



ナンバープレート検知



## AIの社会実装に関する技術

エッジAI技術



エッジセキュリティ



広告配信最適化AI



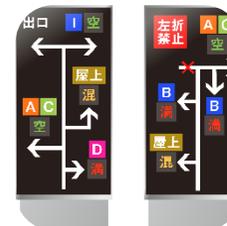
商品レコメンドAI



AIデータアナリティクス



AI-サインージ連携



AI-アプリ連携



# 当社のAIライブラリは、多様な規格（プロセッサ・OS・プログラム言語）環境下で動作・稼働する – エッジAIのプラットフォームとしての役割を果たしていく

## 当社のエッジAIが稼働するエッジ機器の例



- プロセッサ
- OS
- 言語

NVIDIA JETSON Xavier NX

Linux

python™ Rust



NVIDIA JETSON Nano

Linux

python™ Rust



NVIDIA JETSON TX2

Linux

python™



- プロセッサ
- OS
- 言語

intel arm

Linux

python™



QUALCOMM™

ios android

Swift Java



QUALCOMM™

Linux

python™

# AI業界のビジネスモデルが多様化する中、当社はエッジAIプラットフォームとしての ポジショニングを確立

## 事業モデル

**AIサービス販売**

AIで実現される「サービス」  
を提供する事業モデル

スケールサービス

**AI技術提供**

「AI技術そのもの」を  
提供する事業モデル

個別カスタマイズ

クラウドAIサービス

AI受託開発

エッジAIプラットフォーム

Neural Pocket

エッジAI開発

## AI解析技術

クラウド処理

年平均成長率  
**+6%**

エッジ処理

年平均成長率  
**+69%**

# 急速に成長するエッジAI領域に強みを持ち、創業以来、成長を加速してきた

## 当社の事業拡大の歩み

## 当社の成長実績

売上高  
百万円



創業1期目からの  
年率成長率

**+163%**  
0.6億円→28.7億円

マザーズ上場から2年の  
事業規模拡大

**3.8x**  
7.6億円→28.7億円

# スマートシティ化の急拡大が期待されるアジア地域から、AI技術のプラットフォーム化が進展すると考える - 当社サービスのアジア展開を進めていく

Smart Cities Market - Growth Rate by Region (2019 - 2024)



## 2023年4月26日 ソニー株式会社との資本業務提携を発表<sup>\*1,2</sup>

### 資本提携

- 第三者割当増資により690,000株の普通株式新規発行
- 増資により**6.7億円**を調達（5月12日払込完了済）
- 割当後のソニー株式会社 **持分4.56%、当社第3位の株主**へ



### 業務提携

- ソニー株式会社との**人材・サービス・技術の本格的交流開始**（ソニー株式会社より人員受入）
- まずは「**サインエージ関連事業**」、「**AI を利用した人体の態度検知関連事業**」での協業と事業化推進から始動（\*次頁以降に詳細）
- 当社AI技術・AIサービスに関連する**更なる協業を探索**

\*1 詳細については当社2023年4月26日公表のソニー株式会社との業務提携並びに株式引受契約の締結、第三者割当による新株式の発行に関するお知らせをご参照ください。

\*2 ソニー株式会社の概要：代表取締役 兼 CEO 横公雄、本社 東京都港区港南一丁目7番1号、ソニーグループ株式会社の100%保有子会社、エンタテインメント・テクノロジー&サービス事業、従業員数約8,500名、2022年3月期 売上高1,425,640百万円 当期純利益143,753百万円。

# 資本業務提携の狙い (サインージ関連事業) : デジタルサインージ市場は強い成長環境

## 国内デジタルサインージ市場推移\*1

(億円)

毎年拡大額  
**200億円**

**10.9%**  
年平均成長率



## デジタルサインージ市場成長のドライバー

### 1 人的資源のデジタル代替

- ・ 従来、人が行っていた作業の一部が自動化あるいはデジタル化
- ・ コミュニケーションから決済まで人を介在しないデバイスの進化も期待される

### 2 Webからリアルへのシフト

- ・ コロナ禍が明けたことでWeb一辺倒の広告から人が集まる物理空間に脚光
- ・ Webとリアルが融合した新たな広告市場の創出も進む

### 3 紙ポスターからのシフト

- ・ 従来の紙ポスターや静的な看板の入替え進む
- ・ 柔軟に変えられるデジタルコンテンツ発信の動的サインージの更なる普及

\*1 富士キメラ総研 2021年2月発刊 「デジタルサインージ市場総調査 2021」より

# 資本業務提携の狙い (サインージ関連事業) : 当社広告サインージ事業の目指す姿

- AI技術を駆使した次世代デジタルサインージの開発で、新たな広告市場創出と、ワクワクする街空間の実現
- 日本国内および東南アジアをはじめたとしたグローバルな事業展開
- ソニー社との人材・サービス・技術の協業を通じた新規事業開発・事業化を目指す

## 従来の広告サインージの課題

- 広告主にとって、広告効果がわかりにくい、
- 視聴者の細かいターゲティングが難しい
- 広告入稿までのリードタイムが長い
- 視聴者にとっては購買までの導線が滑らかでない  
(例：決済ができない、表示情報を持ち帰りにくい)



## 当社技術により提供できる付加価値

- これまで取得が困難であった視聴者情報の取得で広告効果の最大化
- ネットワーク化されたサインージで細かなターゲティングを実現
- 広告入稿を簡素化で、スピーディな広告入稿
- 双方向のコミュニケーションでインタラクティブなサインージ (例：決済、スマホ連携)



## 資本業務提携の狙い (AIを利用した人体の態度検知関連事業)

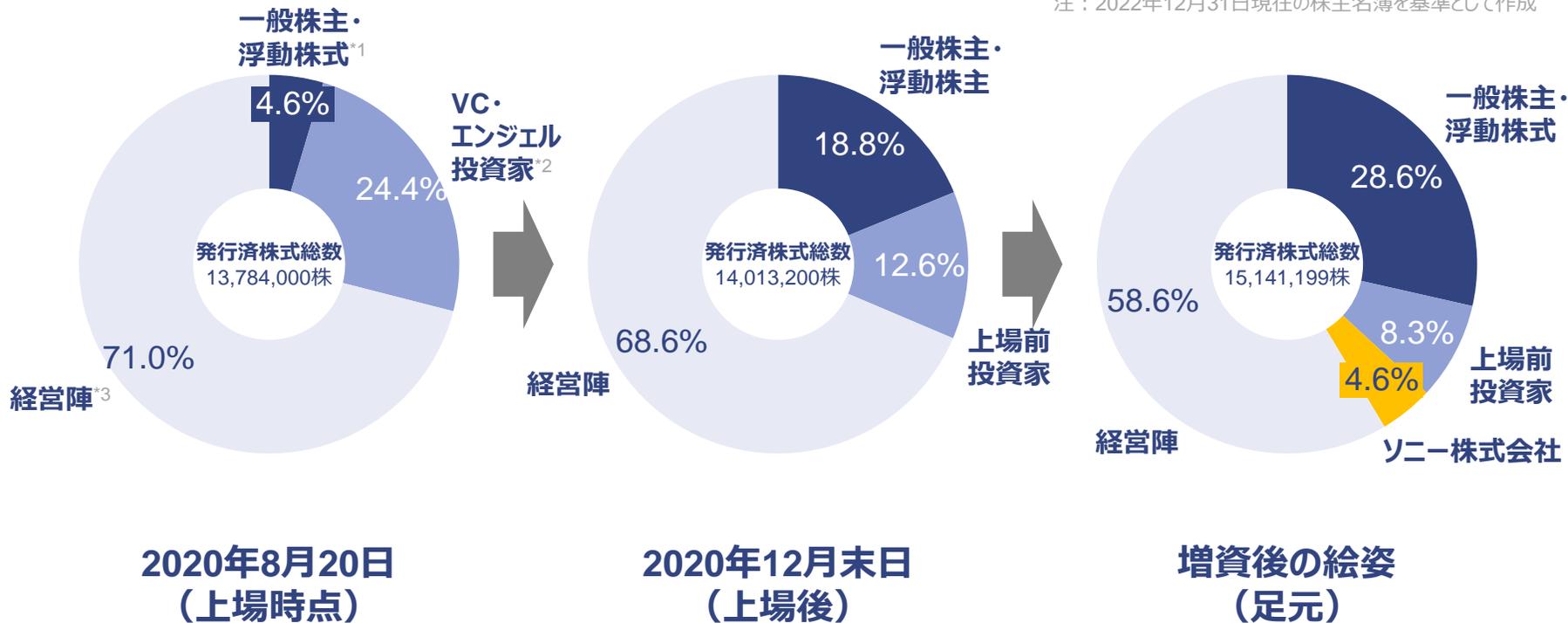
- リモートコミュニケーションが一般化する中、新規サービスの事業探索・事業化についての段階的な検討をソニー社と共同で進める
- 深層学習を用いた態度検知や言語生成AI・音声を通じた人とのインタラクティブな接点の開発を積極的に推進予定



# 浮動株主の拡大で株式流動性を担保しながら、事業会社との資本業務提携を推進

2023年4月26日発表 ソニー株式会社  
を割当先とする増資考慮後試算値  
(5月12日払込手続き完了済)

注：2022年12月31日現在の株主名簿を基準として作成



今後も国内外のグローバル企業を中心に更なる資本提携・資本増強を積極的に推進

\*1 2020年8月20日時点の発行済株式総数13,784,000株に占める、公募株式数415,000株と売出株式数215,800株（オーバーアロットメントを含む）合計に加え、上場前からの株主や経営陣等の売却株式数から算出。

\*2 会社独自調査の結果認識している上場前からの株主（VC投資家、エンジェル投資家）の保有株式。

\*3 当社経営陣の保有株式数

# 補足資料

- AI業界トレンドと当社の強み
- **会社概要**

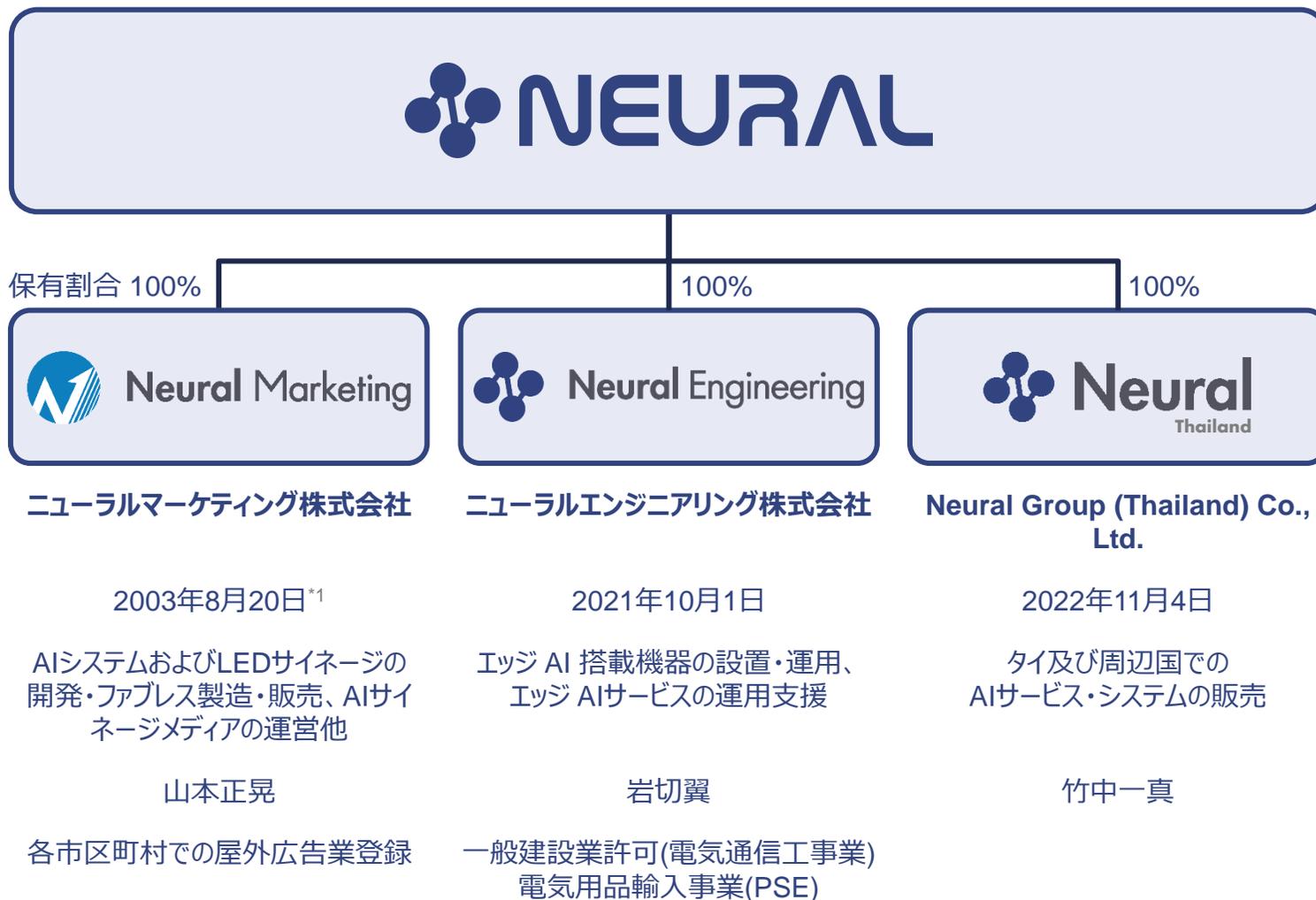
# 会社概要

<b>社名</b>	ニューラルグループ株式会社（英語表記 Neural Group Inc.） 2023年6月1日よりニューラルポケット株式会社からニューラルグループ株式会社へ商号変更をいたしました。
<b>設立</b>	2018年1月22日
<b>代表者</b>	重松 路威
<b>上場取引所</b>	東京証券取引所 グロース市場（TYO: 4056）
<b>本社所在地</b>	東京都千代田区有楽町一丁目1番2号 東京ミッドタウン日比谷 日比谷三井タワー32F
<b>他拠点</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ AIテストフィールド（東京都品川区4-12-6 品川シーサイドキャナルタワー21階）</li> <li>▪ タイ支社（CRC Tower, All Seasons Palace, Wireless Road, Lumpini, Bangkok, 10330）</li> <li>▪ シンガポール支店（9 Straits View, Marina One West Tower, #06-07, 018937）</li> <li>▪ 他国内11拠点</li> </ul>
<b>グループ会社</b> (いずれも 100%子会社)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ ニューラルマーケティング株式会社（代表：山本正晃）</li> <li>▪ ニューラルエンジニアリング株式会社（代表：岩切翼）</li> <li>▪ Neural Group (Thailand) Co., Ltd.（代表：竹中一真）</li> </ul>
<b>従業員数</b>	257名（2023年6月末現在、役員・パート・アルバイト・業務委託を除く）
<b>事業内容</b>	独自開発のAIアルゴリズムによる画像・動画解析と端末処理（エッジコンピューティング）技術を活用したAIエンジニアリング事業
<b>加盟団体</b>	日本経済団体連合会（経団連） 日本ディープラーニング協会（JDLA）他

# 経営陣紹介

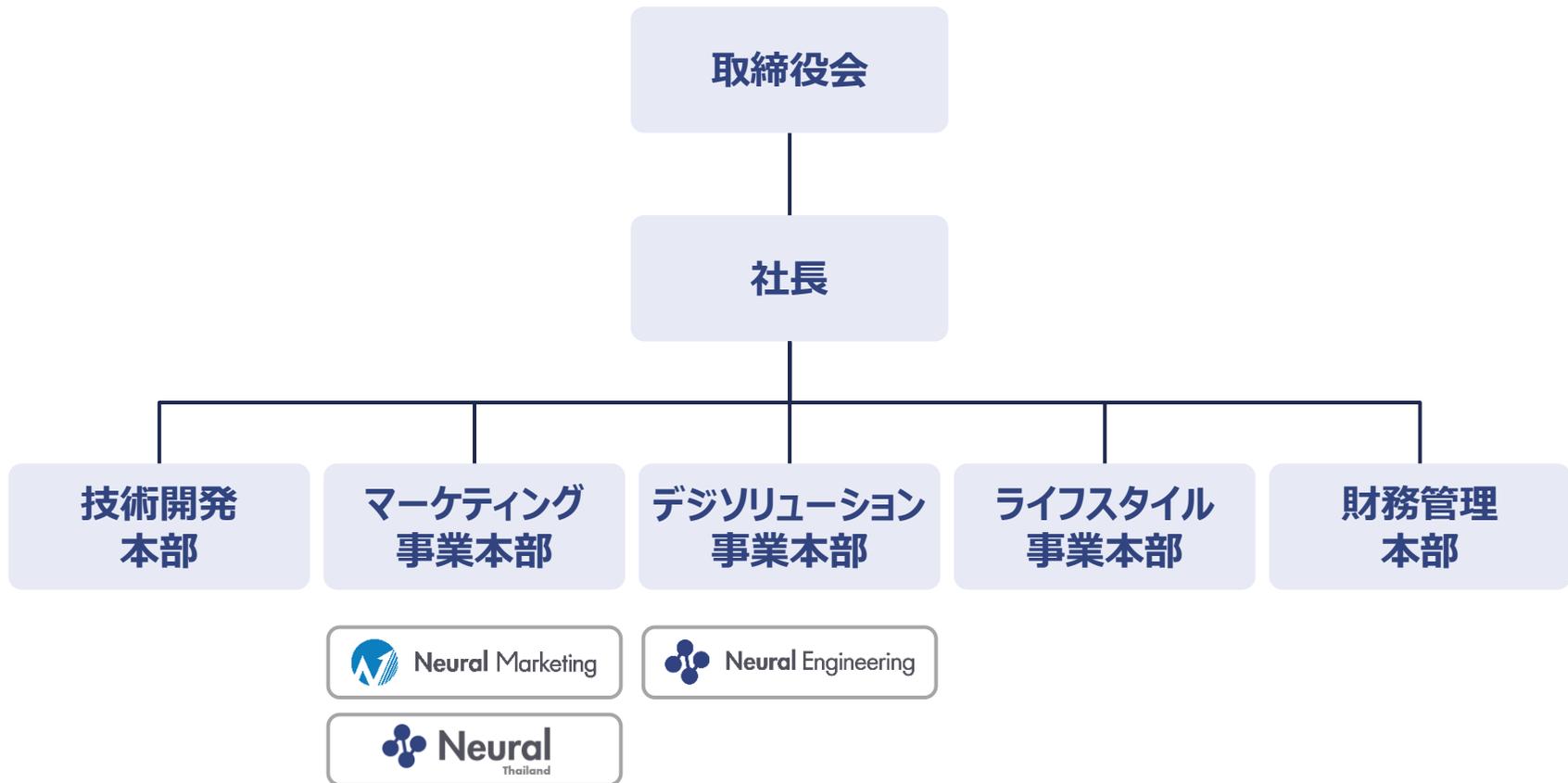
	氏名	主な経歴
取締役	 代表取締役社長 <b>重松 路威</b>	マッキンゼーのパートナーとして日本、ドイツ、アメリカなど11か国で活動。IoT、AI分野をけん引。AIによる実社会のデジタル化の実現を目指し、2018年1月にニューラルグループを創業。東京大学 工学系研究科修士、同大学院 工学部アドバイザーボードメンバー（現任）。
	 取締役 <b>種 良典</b>	ベイン・キャピタル・ジャパンでプライベート・エクイティ投資に従事。オヨテクノロジーアンドホスピタリティジャパンの東京GMを務めた後、ニューラルグループに参画。グループ全体のファイナンス、M&A、コーポレート業務統括。スタンフォード大学経営大学院（MBA）修了。
	 取締役 <b>山本 正晃</b>	ソニーにてDVDやヘッドマウントディスプレイの開発・設計に携わった後、複数の新規事業創出・社内スタートアップを牽引。当社参画後は研究開発部を経て、現在はニューラルマーケティング(株)の代表取締役社長として、デジロック事業、フォーカスチャンネル事業を牽引。東京工業大学修士。
	 社外取締役 <b>山岸 洋一</b>	野村證券株式会社投資銀行部門にてM&Aアドバイザー、公開引受業務に従事した後、みずほ証券株式会社公開引受部長に就任。みずほ証券退職後、株式会社ディー・エル・イー、ラオックス株式会社他社外役員を務める。2020年、当社社外取締役就任。公認会計士。
	 社外取締役 <b>蓮見 麻衣子</b>	株式会社フジテレビジョン、フィデリティ投信株式会社を経て、エバーリッチアセットマネジメント、Zホールディングス株式会社（旧ヤフー） 取締役監査等委員など、社外取締役多数。2021年、当社社外取締役就任。スタンフォード大学経営大学院（MBA）修了。
監査役	 常勤監査役 <b>竹村 実穂</b>	新日本監査法人（EY新日本有限責任監査法人）において主に証券会社など金融機関の監査業務に従事した後、株式会社アイリッジにおいて新規上場時の常勤監査役を経験。2019年より当社常勤監査役就任。公認会計士。
	 監査役 <b>若松 俊樹</b>	佐藤総合法律事務所を経て、Saltus法律事務所を開設。株式会社Orchestra Holdings、株式会社Voicyなどで取締役を務める。2019年より当社の監査役に就任。弁護士。会社法・金商法等幅広い企業法務が専門。
	 監査役 <b>白井 元</b>	あらた監査法人（PwCあらた有限責任監査法人）、フロンティアマネジメント、監査法人トーマツを経て、株式会社グリーンティーを設立。株式会社クリュートメディカルシステムズなどで監査役を務める。2020年当社の監査役に就任。公認会計士。
顧問	 顧問 <b>松尾 豊</b>	東京大学大学院工学系研究科人工物工学研究センター教授。日本のAI・深層学習分野における第一人者。日本ディープラーニング協会理事長、ソフトバンクグループ株式会社社外取締役を務める。

# 当社グループ体制（2023年6月30日現在）

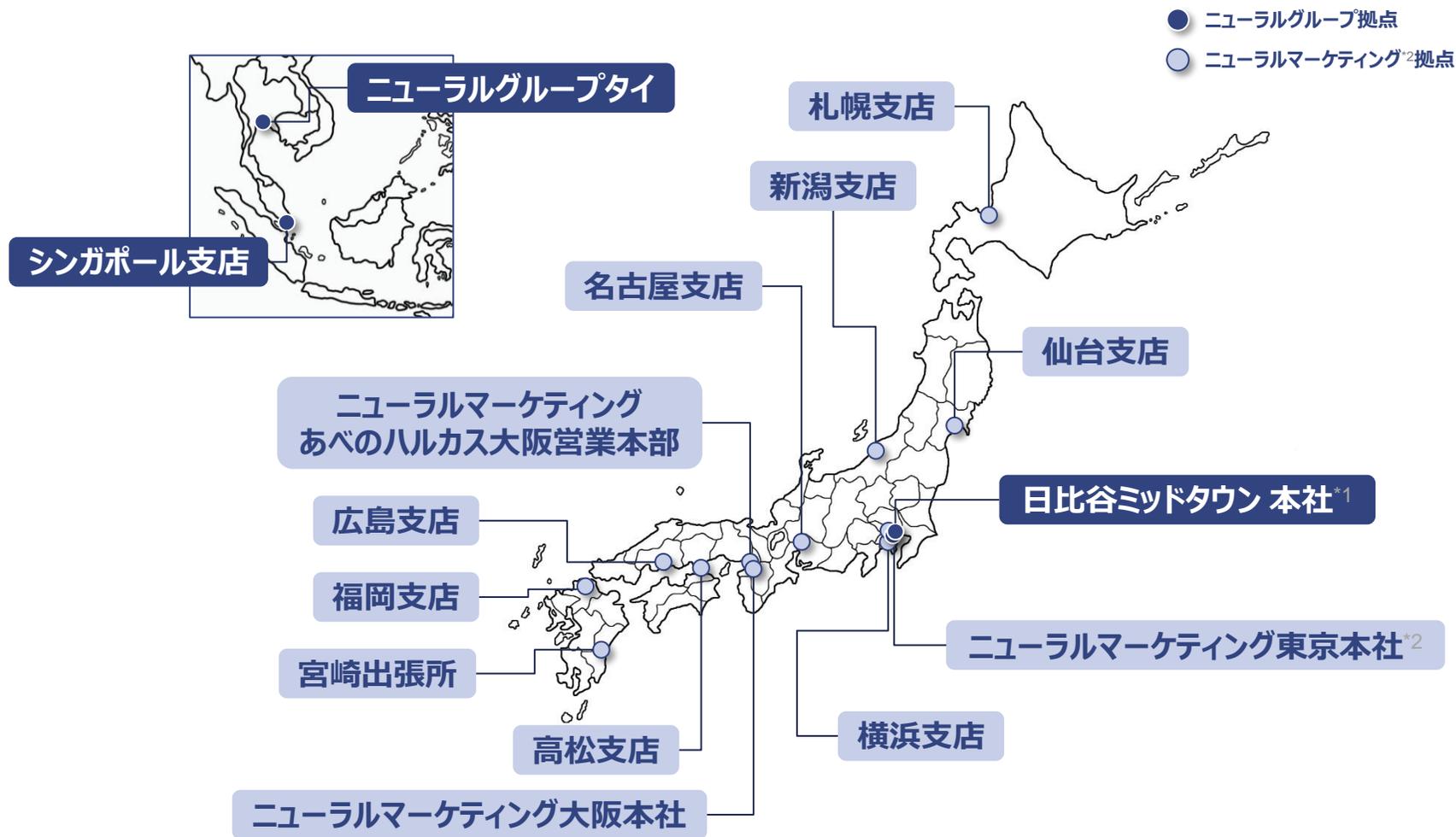


\*1 2022年9月1日にネットデン株式会社からニューラルマーケティング株式会社へ商号変更。ネットデン株式会社の設立日を記載。

# 組織図：2022年1月より事業部制によりプロダクトごとに執行体制を敷く



# グループ全体で国内外15拠点 – 全国各地でのスマートシティ実現に必要な体制構築



\*1 ニューラルエンジニアリング株式会社はニューラルグループ株式会社本社と同一拠点内。

\*2 AIテストフィールドはニューラルマーケティング東京本社と同一拠点内。

# 公共団体などが主催する多くのセミナーやイベントに登壇

## AI技術

- G7群馬高崎デジタル・技術大臣会合 閣僚向け企業展示
- 経産省・経団連共催 スタートアップの海外展開に向けた官民連携カンファレンス 登壇
- アバンテック株式会社主催Tokyo AI フォーラム - 製造業DX・スマートシティ 登壇
- 東京データプラットフォーム協議会 専門アドバイザーへの選任
- AIイノベーションAWARD2022「スマートシティで描く未来」に関する講演
- AWSジャパン「IoT 技術者向けAWSセミナー」他 “IoT Coreを使ったサービスの作り方”



## 街づくり

- 全日本駐車協会機関誌「PARKING NOW」寄稿
- 駐車場改革推進協議会 登壇
- LOGISTICS TODAY主催セミナー 登壇
- RX Japan NexTech Week2022【秋】「スマートシティの今」に関する講演
- 渋谷区立北谷公園神南マーケット 未来のシブヤパークを考えよう 登壇
- 室蘭市DX推進フォーラム デジタルがもたらす便利で快適な生活「つながるスマートシティ」パネリスト
- 新「道の駅むらやま」整備基本計画検討市民会議 アドバイザー
- 地方創生カレッジ in 小樽 デジタル田園都市国家構想を軸に新たな北の商都「小樽」を考える



## 学術分野との連携

- 東京大学未来ビジョン研究センター主催 柏の葉アーバンデザインセンターでの市民とのまちづくりワークショップへの活用セミナー 登壇
- 大正大学 「AI画像解析は社会でどう活用されているか」ゲスト講師
- チュラロンコン大学サシン経営大学院のセミナー 登壇
- タイ バンコク 高専「KOSEN-KMITL」連携協定に基づく定期的な講義



## 海外事業

- 日タイ政府及びPTTグループ共催「Zest Thailand 2023」登壇

## その他

- デロイトトーマツ主催 テクノロジー企業成長率ランキング 2022年日本テクノロジー Fast 50 受賞
- 経済産業省 第5回 繊維産業のサステナビリティに関する検討会



# AIやスマートシティに関連する多くの官民の団体に加盟

## スマートシティ関連

**総務省**  
MIC Ministry of Internal Affairs and Communications

デジタル海外展開プラットフォーム

**OSAKA SMARTCITY PARTNERS FORUM**

**国土交通省**

スマートシティ  
官民連携  
プラットフォーム

**PLATEAU**  
by MLIT

**TDPF**  
Tokyo Data Platform

鎌倉市スマートシティ官民研究会

大阪商工会議所  
MaaS社会実装推進フォーラム

## 業界団体

**経団連**

**JCSC**  
一般社団法人  
日本ショッピングセンター協会

一般社団法人  
日本ディーラーニング協会

お役に立ちます！

**大阪商工会議所**

**SENDAI BOSAI TECH**

一般社団法人  
全国道の駅連絡会

公益社団法人  
日本ロジスティクスシステム協会  
JAPAN INSTITUTE OF LOGISTICS SYSTEMS

一般社団法人  
全日本駐車協会

**MFLP & LOGI Solution**

## 企業との連携

**MONET CONSORTIUM**

**NTTPC COMMUNICATIONS**  
【Innovation LAB】NTTPCのAIコラボレーションプログラム  
**Innovation LAB**

**NVIDIA**  
NVIDIA METROPOLIS

aws  
Startup Ramp  
Member

**AWS Public Sector Startup Ramp**

## 海外

**日本タイ協会** THE JAPAN THAILAND ASSOCIATION

**JETRO** (ジエトロ・メンバーズ)  
日本貿易振興機構(ジエトロ)

## LEDビジョン設置事例ご紹介

視認性や空間演出に優れたLEDビジョンは、施設や店舗の販売促進や、人々が情報と出逢う媒体として、街中の様々なシーンで活用されている

### 大規模業者様向け



今治里山スタジアム



湘南ベルマーレ

### 小規模事業者様向け



チェーン店



壁付



置型

### 官公庁様向け



役所



消防署



警察署

## LEDビジョンの導入実績は全国1万箇所以上で国内トップ

全国10,000か所を超える、  
国内トップの導入実績



LEDビジョン  
国内販売1位



- **圧倒的な導入実績**  
大企業・官公庁・商業施設・個人商店といった多様な業種への導入実績
- **圧倒的な安定稼働実績**  
寒冷地域や高温多湿地域も含む全国での安定稼働実績
- **柔軟な契約形態**  
リース契約やクレジット・キャッシュ一括買取などを柔軟に対応

👍 大企業・官公庁・商業施設・個人商店といった様々な業種にわたり、全国で圧倒的な導入実績を保有。当社グループ参画後は、大規模法人や大型施設への導入も加速で、遠隔でのコンテンツ配信やAI検知機能を付加した高機能商品の開発も推進中。

都心マンションの情報感度の高い居住者へ  
広告主様のメッセージをお届けします。

エントランスホール



エレベーターホール



ラウンジ



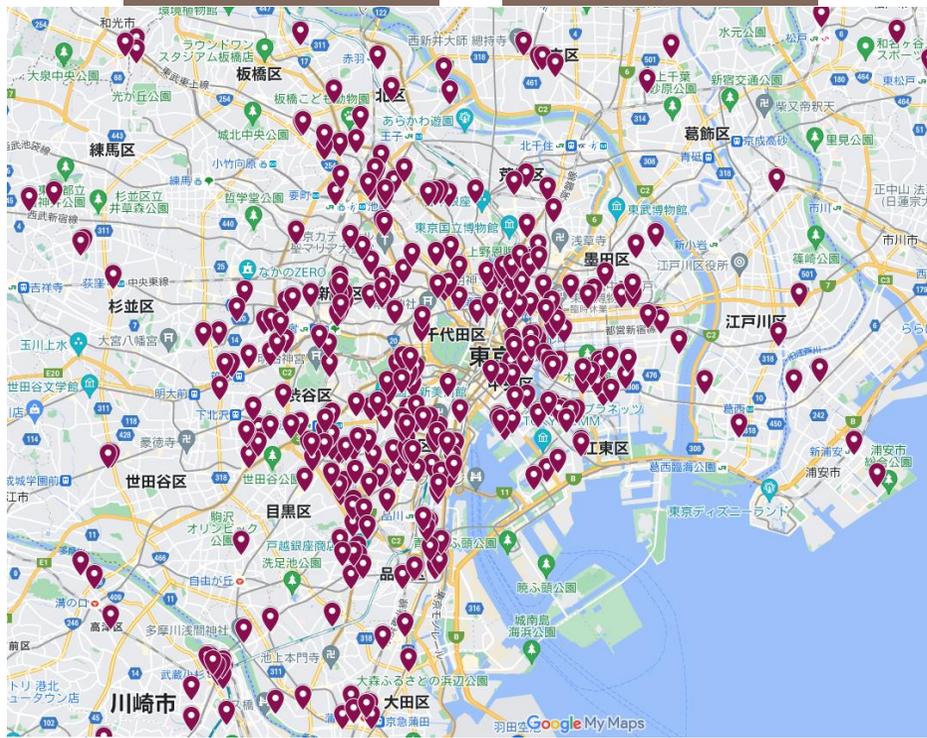
受付横



約20万人の首都圏富裕層に、  
毎日・繰り返しリーチ可能な広告メディアです。

約420棟

約80,000世帯



※2022年12月末時点見込み



マンション  
サイネージ広告  
業界1位  
\*当社調べ

### Impression

情勢に左右されない  
安定したリーチ数

### Frequency

生活動線にあり、  
居住者全員に繰り返し訴求

>> 1棟あたり想定視認回数: 150万回~/月

>> 1棟あたり想定再生回数: 350万回~/月

### Targeting

ハイグレードマンション居住の  
富裕層を中心にターゲティング

### One-stop

広告配信とフライヤー設置により、  
認知から詳細検討まで一貫して獲得

# 2022年11月タイ進出で東南アジアで活発なグリーンフィールド型開発への参画開始

ニューラルグループタイ（バンコクオフィス）の様子と拠点所在地のCRC Tower



**社名** Neural Group (Thailand) Co., Ltd.

**代表者** 竹中一真 CEO, Managing Director

**所在地** 36th Floor, Office number 11, CRC Tower, All Seasons Place, Wireless Road, Lumpini, Phatumwan, Bangkok, Thailand 10330

**設立** 2022年11月4日

**出資比率** ニューラルグループ株式会社100%

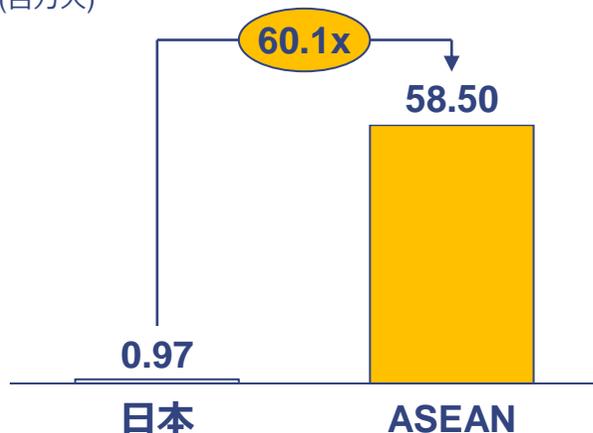
**設立背景** 日本国内でスマートシティを実現するための独自のAIサービスを多数開発、提供してきた実績をもとにタイを中心とする東南アジア地域での事業拡大を目指す。特に東南アジア各国では広大な規模で新しい街をつくる「グリーンフィールド」型の開発がさかんであり、大規模開発に参画することを狙う。

# タイをはじめとする東南アジア地域では活発なインフラ開発投資を見込む

## ASEAN 地域での 都市開発 規模

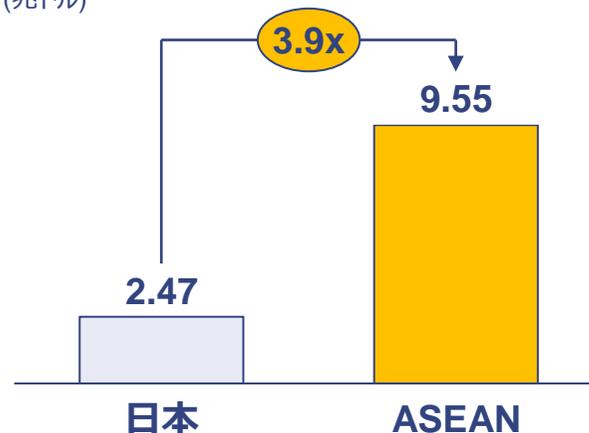
都市人口の伸び（過去10年間）\*1

(百万人)



都市開発市場規模（過去10年間）\*1

(兆ドル)



## タイ国家 主導での 投資計画



『東部経済回廊 (EEC)』  
へのインフラ開発

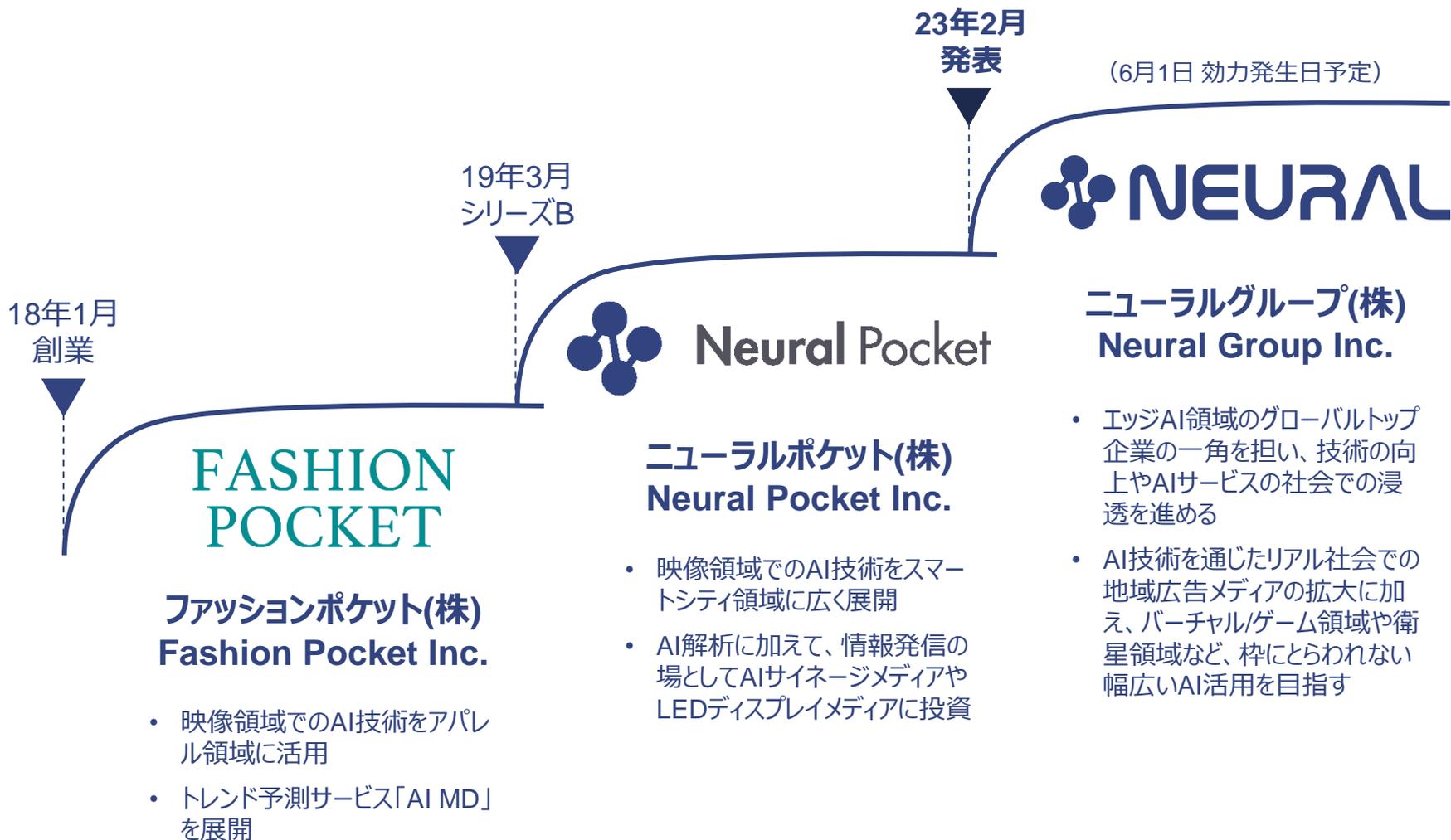
『タイランド4.0』  
12重点産業への投資誘致  
でインフラ開発、新都市開発

総額**9.8兆円**  
(2022-2026年、  
2.5兆バーツ)  
のインフラ投資  
を計画

i: バンスー駅周辺整備に向けたスマートシティ構想、ii: AMATAチョンブリ・ゲートウェイR&Dハブのスマートシティ目指す、iii: One Bangkok Project。いずれもタイで開発予定のスマートシティの例。

1: 「海外都市開発事業の展開に向けて～スマートシティのビジネス創発～」、野村総合研究所発表（2014年12月16日）

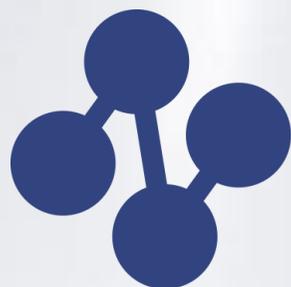
# 22年までの創業5年で構築した事業基盤を基に、23年以降はより広い事業展開や社会貢献を目指す – 社名を「ニューラルグループ」にリブランディングして再出発



\*1 暫定版、新ロゴについて後日発表予定

創業5年を迎えたニューラルポケットは新しいスタートへ

AIで心躍る未来を



NEURAL

ニューラルグループ株式会社

Neural Groupという社名には、AI技術をはじめとする最先端テクノロジーの開発を通じ、幅広い領域で、枠にとらわれない心躍るサービスの提供を目指したいという思いが込められています。リアル空間、バーチャル空間のいずれにおいても、エッジAI技術を活用し、AIカメラや広告配信、ファッション・アパレル、AIゲームや衛星写真のAI解析など、様々な領域で、心躍る未来の社会をグローバルに実現していきたいと思えます。

## 免責事項

### 本資料の取り扱いについて

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意ください。上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合において、当社は、本資料に含まれる将来に関するいかなる情報についても、更新・改訂を行う義務を負うものではありません。また、本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

